

# JUNKAN

循環研 Junkan Workers Club  
NPO 法人循環型社会研究会

循環研通信  
No.54  
2019 July

## 大阪 G20 に見る平和で持続可能な世界への課題

循環研代表 久米谷 弘光

6月28日、29日の両日、大阪市で開かれた主要20か国・地域首脳会議（G20サミット）に参加する首脳たちは、台風3号とともにやってきて、九州がまた豪雨に襲われる中、文字通り嵐のように去っていった。

嵐の中心には、やはりトランプ大統領がいた。ゆえに、残念ながら最近毎年のように日本に豪雨被害をもたらす気候変動への対策について議論の進展はなかった。逆に、G20大阪首脳宣言には、「米国は、パリ協定が米国の労働者及び納税者を不利にするとの理由から、同協定から脱退するとの決定を再確認する」と盛り込まれた。

気候変動対策に向けて世界の首脳の足並みを揃えるためには、トランプ氏から米国大統領の地位



G20 大阪サミット公式ホームページより

を奪うことが必要だが、彼は、今回のG20を次期大統領選に向けて、得意の“ディール（取引）”実績アピールのための場として有効に利用した。

## CONTENTS

- P1 大阪 G20 に見る平和で持続可能な世界への課題
- P7 温暖化対策ノート 2019
- P10 環境俳句
- P12 春夏秋冬

- 循環研代表 久米谷 弘光
- 循環研理事 槌屋 治紀
- 循環研理事 及川 陽子
- 風月

## 場外での意外な成果：歴史的な米朝会談

世界が成り行きを注目している米中貿易戦争については、習近平国家主席との会談で、世界経済や自国にもマイナスの影響をもたらす関税「第4弾」を回避し、中国から大量の米国農産物輸入の約束を取り付けた。これは、G20 会場内での大きな成果だったが、さらにトランプ氏は、G20 の会場外で成果を上げた。29日の朝、ツイッターで急きょ北朝鮮の金正恩北朝鮮労働党委員長に会談を呼びかけ、そして30日、G20 からの帰国途中の韓国訪問に合わせ、文在寅大統領と共にわずか1日で金委員長との会談を実現した。かくして、トランプ氏は板門天の軍事境界線を越えて、北朝鮮側に足を踏み入れた最初の米国現職大統領となった。

1950年に勃発した朝鮮戦争。米国は韓国とともに北朝鮮と戦い、3年後に休戦協定を結んだが、いままも平和協定は結ばれていない。米韓と北朝鮮は「戦争状態」にある。トランプ氏は米軍トップとして敵地を訪問したことになる。朝鮮半島の非核化に向けての道のりは近いとは言えないだろうが、これはこれで歴史的な会談となった。

## トランプ氏の不満表明は日米安保見直しの好機

一方、安部首相も G20 議長として、参議院選挙に向けて外交実績のアピールに懸命だったが、米朝会談については蚊帳の外。日韓関係は、徴用工問題に加え半導体材料の輸出規制でさらに冷え込んだ。夕食会でのスピーチで大阪城の復元時にエレベーターを設置したのは「大きなミス」とした発言は、東京五輪・パラリンピックを控えて「バリアフリーの意識の欠如」と批判された。そして、トランプ大統領からは日米安全保障条約は「不公平な条約だ」と不満をぶつけられ、しかも、「過去6か月間、安倍首相に伝えてきた」と暴露されて、冷や水を浴びせられた格好だ。

しかし、これは日米安全保障条約を見直す好機である。トランプ政権と安倍政権の結びついた日米安保は、いまや日本に大きな負担とリスクをも



たらすだけでなく、東アジアや世界の平和にとっても脅威となっている。

日米安全保障条約の下、沖縄では普天間基地返還を口実に辺野古新基地建設が強行され、世界有数の貴重な生態系をもつ大浦湾が埋め立てられようとしている。大浦湾には海洋環境の保全に欠かせない大型サンゴ礁の群生やジュゴンなど絶滅危惧種 262 種を含む 5,800 種の生物が確認されている。知事選や県民投票で沖縄県民の新基地建設反対の民意が明確に示されているにもかかわらず、国は憲法で保障されている民主主義や地方自治、基本的人権等を見捨てて日米安保を優先する。2015年、安倍政権は集団的自衛権行使を容認する安保法制を強行採決した。日本の防衛費は 5 兆円を超え、トランプ大統領の言いなりに F35 戦闘機、イージス・アショアなど武器を爆買い。そして、安倍政権が選挙で争点とするのが、憲法 9 条に自衛隊を明記する憲法改正である。

どれもが強固な日米同盟を前提にしている。しかし、トランプ大統領にとっては、日米安保は貿易交渉、つまりディールの道具に過ぎないことが、今回の発言で明らかとなった。

## G20サミット（金融・世界経済に関する首脳会合）とは

G7(仏、米、英、独、日、伊、加(議長国順)の7か国及び欧州連合(EU))に加え、アルゼンチン、豪、ブラジル、中、印、インドネシア、メキシコ、韓、露、サウジアラビア、南アフリカ、トルコ(アルファベット順)の首脳が参加して毎年開催される国際会議。G20サミットにはメンバー国以外にも、招待国や国際機関などが参加している。G20サミットの日本での開催は、今回が初めて。

G20サミットは、リーマン・ショックを契機に発生した経済・金融危機に対処するため、2008年11月、主要先進国・新興国の首脳が参画するフォーラムとして、従来のG20財務大臣・中央銀行総裁会議が首脳級に格上げされ、ワシントンDCで第1回が開催された。以降、2010年まではほぼ半年毎に、2011年以降は年1回開催されている。

G20作業の運営は、現議長国、前議長国並びに次期議長国の協力による「トロイカ体制」で行われる。日本が議長国を務める今回は、アルゼンチン(2018年議長国)、サウジアラビア(2020年議長国)と連携して行われた。

今回の招待国は、スペイン、チリ(APEC 議長国)、エジプト(AU 議長国)、オランダ、セネガル(NEPAD 議長国)、星(シンガポール)、タイ(ASEAN 議長国)、ベトナム。

国際機関の参加は、国際連合、国際通貨基金(IMF)、世界銀行、世界貿易機関(WTO)、国際労働機関(ILO)、金融安定理事会(FSB)、経済協力開発機構(OECD)、世界保健機関(WHO)、アジア開発銀行(ADB)。

今回のG20は安倍総理を議長として、「世界経済、貿易・投資」「イノベーション(デジタル経済・AI)」「格差への対処、包摂的かつ持続可能な世界」「気候変動・環境・エネルギー」の4つのセッションが行われた。

安倍政権がトランプ大統領にすり寄れば、すり寄るほど日本の平和主義の国際的な信頼度は低下する。

日米安保の本質的な問題は、トランプ大統領が不満を表明した米軍は日本を守るが日本は米軍を守らないという「片務性」の問題でも、沖縄県や国が主張する地位協定の不平等性の問題ではない。そもそも、自衛隊、海上保安庁、日米安保はいずれも朝鮮戦争を契機として成立したものである(詳細は2018年4月発行循環研通信 vol.49 の拙稿「平和をつくる環境戦略」参照)。良くも悪くも、トランプ大統領のディールによって米中、米朝、米ロの関係がダイナミックに変化する中、日米安保のあり方を見直すことは必要不可欠である。

日米安全保障条約第十条には「この条約は、日本区域における国際の平和及び安全の維持のため十分な定めをする国際連合の措置が効力を生じたとき日本国政府及びアメリカ合衆国政府が認める時まで効力を有する。もつとも、この条約が十年間

効力を存続した後は、いずれの締約国も、他方の締約国に対しこの条約を終了させる意思を通告することができ、その場合には、この条約は、そのような通告が行われた後一年で終了する。」とある。つまり、日米安全保障条約はすでに10年の有効期間は過ぎて、日米どちらかが条約終了の意思を伝えれば1年後に終了できる。本質的問題は、日本区域における国際の平和及び安全の維持のための国連の措置が効力を生じていないことである。

日本国憲法は、国連憲章の集団安全保障の理念と呼応するかたちでつくられており、日米安保に依存した自衛隊の憲法明記は、国連憲章からの乖離を意味する。「日本区域における国際の平和及び安全の維持のため十分な定めをする国際連合の措置」という日米安保の本来の目的からしても、日本は、日米安保から国連安保へのシフトを図っていくべきであり、自衛隊の位置づけも国連安保の枠組みの中で考えていくべきである。

今回のトランプ大統領の日米安保への不満発言

で、その確信が深まった。軍事力を背景に貿易・経済交渉を進めるトランプ政権と、戦後レジームからの脱却=戦前回帰を狙う安倍政権がリードする日米安保は、日本にとっても、東アジアや世界の平和にとっても危険極まりないものになりつつある。その見直しは、自衛隊明記の改憲議論の前提として必要不可欠である。

また、韓国軍と米軍が朝鮮戦争においては多国籍軍の「国連軍」として活動していたことを忘れてはならない。自民党は参院選を前に韓国に対して、高圧的にふるまうほど支持者が喜ぶと思っている節がある。しかし、軍事的には、かつての国連軍、現在の米韓相互防衛条約と日米安全保障条約との亀裂、摩擦とも感じられるもので、米軍として歓迎できるものではない（武器を売りたいトランプ大統領はどうかかわからないが）。日本の「友好国」としての韓国が失われるということは、日本の安全保障の最前線が「38度線」から「対馬海峡」に後退し、米国との同盟関係も危うくなることを認識しておく必要がある。

## 「大阪首脳宣言」から見える課題

### —止まらない経済成長至上主義

さて、話をG20に戻そう。G20サミットは、加盟国のGDPが世界の約8割以上を占めるなど、経済分野において大きな影響力を有している。また、リーマン・ショックを契機に発生した経済・金融危機に対処するという設立経緯もあり、主要議題は基本的に経済分野である。しかし、経済分野以外の社会・環境分野の多様な課題も議題となっており、ここではG20大阪サミット「大阪首脳宣言」にそって、現在の世界の課題を俯瞰的に見てみようと思う。

「大阪首脳宣言」では、まず、前文では、次の3つのことが宣言されている。

1. 全ての人々の利益のために、技術イノベーション、特にデジタル化及びこれを適用した力を活用しつつ、世界経済の成長促進に向けて

協働する。

2. 不平等に対処することによって成長の好循環を創出し、全ての人々が自らの潜在力を最大限に活用できる社会を実現し、経済、社会及び環境の課題に対処する能力を有する社会を建設する。
3. 持続可能な開発のための2030アジェンダに掲げられている、包摂的かつ持続可能な世界に向けた道を開くため、開発を促進し、その他の地球規模の課題に対処する取組を主導する。

残念ながら、ここには経済成長の追求が社会や環境の問題、地球規模の課題を引き起こしている状況への洞察がなく、経済成長が課題解決につながるという幻想が見える。経済成長が引き起こす課題への対処療法として、持続可能な開発のための2030アジェンダをリードするという宣言がなされている。

世界経済については、足元で安定化の兆しがあり、本年後半及び2020年に向けて緩やかに上向く見通し。他方、下方リスクが依然として存在し、とりわけ、貿易と地政を巡る緊張が増大していると分析している。そして「強固で、持続可能で、均衡ある包摂的な成長を目指し、下方リスクの顕在化を防ぐため、全ての政策手段を用いる」としている。ここでは、グローバル・インバランス（経常収支不均衡）が依然として高水準かつ持続的と問題にされているが、これは南北問題や格差是正というよりもトランプ大統領らに象徴される自国ファーストによる利害対立の要素が強そうだ。「高齢化を含む人口動態の変化が、G20各国に対して課題と機会をもたらす」との記述も注目したい。最近発表された国連の人口推計でも、世界人口の高齢化への対応が課題視されている。

### 「自由貿易」「反保護主義」は後退、「デジタルイノベーション」「質の高いインフラ投資」が強調

貿易と投資に関しては、トランプ大統領への付

度が働いて、例年の宣言で強調される「自由貿易の推進」や「反保護主義」の記述はない。代わりに「我々は、自由、公平、無差別で透明性があり予測可能な安定した貿易及び投資環境を実現し、我々の市場を開放的に保つよう努力する」との原則やWTO改革、公平な競争条件の必要性が述べられている。鉄鋼の過剰生産能力の調整も課題とされている。

イノベーションについては、経済成長の重要な原動力であり、持続可能な開発目標（SDGs）及び包摂性向上にも寄与すると位置づけられている。「ソサイエティ5.0」「データ・フリー・フロー・ウィズ・トラスト（信頼性のある自由なデータ流通）」「人工知能（AI）の責任ある開発及び活用」「デジタル経済におけるセキュリティ促進、知的財産保護」「スマートシティ開発に向けた都市間ネットワーク」といったキーワードと課題が並ぶ。G20のセッションに先立つデジタル経済に関する首脳特別イベントでは「大阪トラック」が立ち上げられ、今後、同トラックを通じ、WTOでの電子商取引をはじめとするデジタル時代のルール作りを進めていくとされている。

また、「質の高いインフラ投資に関するG20原則」が承認され、ライフサイクル・コストでみた経済性の向上、環境・社会配慮の統合、自然災害その他のリスクに対する強じん性の強化、インフラ・ガバナンスの強化の重要性が強調されている。

そのほか、国際金融ではGAFANAなど巨大IT企業を対象としたデジタル課税や腐敗対策が課題とされている。

### 不平等への対処による成長の好循環の創出

不平等への対処による成長の好循環の創出としては、「労働雇用」「女性のエンパワーメント」「観光」「農業」の4つの課題が取り上げられている。

労働雇用については、若者や女性、障害者の経済活動への参加を増やしつつ、高齢期も労働市場

に参加できるような健康で活力ある高齢化社会を促進し、技術革新によって生じつつある新しい労働形態に対して適切な政策対応を策定するとしている。

ジェンダー平等と女性のエンパワーメントについては、持続可能で包摂的な経済成長に不可欠として、2025年までに労働力参加における男女間の格差を25%削減するとのブリスベン・ゴールに向けた進捗に留意し、取組の加速化し、年次報告書に基づき進捗を確認していくとしている。

観光については、観光産業は世界経済の成長の重要な牽引役とし、農業については、農村地域の再活性化にも貢献する、持続可能で、科学に基づく、強じんな農業・食品バリューチェーンを、家族農業及び小規模農家を含め、包摂的かつ衡平な方法で発展させることの重要性を認識するとしている。

### 包摂的かつ持続可能な世界の実現

包摂的かつ持続可能な世界の実現については、「開発」「国際保健」「地球環境問題」「気候変動」「エネルギー」「環境」「避難と移住」という7つの課題が取り上げられている。

開発に関しては、9月の国連ハイレベル政治フォーラム等を目指して、SDGsの実施に主導的な役割を果たすこと、開発途上国のSDGsに向けた努力を支援、人的資本投資へのコミットメント等が宣言されている。

国際保健に関しては、持続可能かつ包摂的な経済成長の前提条件であるとし、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成に向けて前進していくとしている。高齢化社会への対応、健康長寿の推進のため、イノベーションを活用した保健サービスの質の向上。公衆衛生の改善にコミット。現在エボラ出血熱の流行に苦しむ国々を支援。ポリオを撲滅し、エイズ、結核及びマラリアの流行を終わらせるとのコミットメントを再確認。薬剤耐性（AMR）に取り組むためのワン・ヘルス・アプローチに基づく努力の加速についても言及されて

いる。

地球環境問題については、イノベーションを通じた「環境と成長の好循環」の実現が重要とされ、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）等の作業に留意しつつ、気候変動、海洋プラスチックごみ、生物多様性の損失等の環境問題を含むグローバルな課題に対処。持続可能な成長を促進しつつ、エネルギー転換を促進する必要性を認識しているとしている。

気候変動については、持続可能な開発のための包括的資金調達、並びに、低排出及び強じんな開発のための幅広い分野におけるイノベーションを促進するために努力していくとしているが、米国のパリ協定から脱退するとの決定を再確認したとの記述も加えられたことは前述のとおりである。

エネルギーについては、「3E+S」（エネルギー安全保障、経済効率性、環境+安全性）を実現するエネルギー転換が重要として、水素、並びに、各国の状況に応じて、「カーボン・リサイクル」等に関する作業に留意しつつ、二酸化炭素回収・利用・貯留（CCUS）を含む、エネルギー転換に向けた革新的、クリーンで効率的な技術の更なる発展によってもたらされる機会を認識するとする。

環境については、循環経済、持続可能な物質管

理、3R（リデュース、リユース、リサイクル）による資源効率性向上が重要とされている。また、2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにすることを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を共有し、「G20海洋プラスチックごみ対策実施枠組」を支持。海洋資源の持続的な利用を確保し、生物多様性を含め海洋環境を保全するために、違法・無報告・無規制（IUU）漁業に対処する重要性を認識している。

避難と移住については、G20で国際的な移民と避難の様々な側面に関する対話を継続。難民の大規模な移動を懸念。根本原因に対処し、人道的ニーズの増大に対応するための行動を分担する重要性を強調している。

このように、様々な社会・環境課題への対処を認識しているG20だが、その経済成長至上主義は止まらない。自国ファーストのディールを展開するトランプ大統領の派手なパフォーマンスと持続的成長をスローガンとする安倍首相が議長を務めたことで、その傾向は加速している感がある。すでに世界の経済規模は地球の環境容量を超えていることを認識した成長のコントロールこそ持続的な社会の発展には必要である。



G20 大阪サミット公式ホームページより

## 温暖化対策ノート 2019

### 循環研理事 榎屋治紀

地球温暖化が進行している。その対策について最近の動きを追いかけてみよう。

#### 高校生の主張

スウェーデンの16才の高校生グレッタ・トゥンベリさんが昨年夏、ひとりで始めた抗議行動がある。金曜日の授業をボイコットして「気候のためのストライキ」と書いたプラカードを掲げて、学校に行かずに、国会前に座り込んだ。その主張を読んでもみると「自分は誰からも支援を受けていない。信じることをしているのだ」という思いが切々と語られている。

自分たちが温暖化の影響を受ける世代だからといわれれば誰も反論できそうにない。高校の先生もどうしたらよいのか当惑していることだろう。彼女は COP24 でもスピーチをした。その動きは SNS で広がり、ワシントンや日本にもその影響はおよび、3月15日には世界の2千都市以上でデモが行われ、計150万人が参加したという。「フライデイズ・フォア・フューチャー」は世界的に広がっている。ヨーロッパでは緑の党が躍進している。

#### 気象庁気象研究所が研究発表 「猛暑は温暖化が原因だ」

猛暑になるとテレビの気象予報では「温暖化の影響だろう」と未確認情報のようにいわれるが、確かにそうなのかと聞けば、返事はあいまいになる。私は、気象庁が「温暖化についての公式見解」を出すべきだと、日ごろ言っていたところ、5月22日、ついに発表があった。

気象庁気象研究所の今田由紀子主任研究官は、温室効果ガスの濃度を産業革命前に設定するなどした「温暖化のない地球」と、実際の気候をもとにした「現実の地球」で、大気や海水温のデータをもとに約60年分の気象状況を、コンピュータで100

回ずつ再現し、その結果、日本上空が昨年7月を超える気温になる確率は、現実の地球では約20%だったのに対し、温暖化のない地球ではほぼ0%と推定された。「昨年の猛暑は温暖化の影響であることが、数値で裏付けられた」というのである。今後は、「この猛暑は温暖化の影響である」とははっきり言おう。

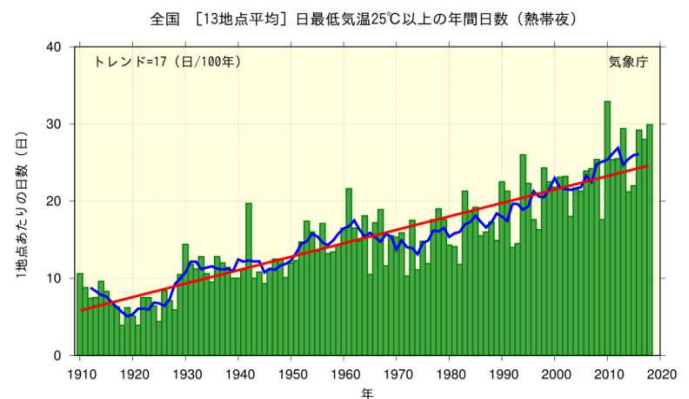


図 全国の日最低気温25°C以上(熱帯夜)の年間日数の経年変化(1910~2018年)

上図は、この発表以前に気象庁が発表した熱帯夜の年間日数(1910~2018)のデータである。熱帯夜は一日の最低温度が25°C以上の日をいう。既に1年間に30日を超えている。

棒グラフ(緑)は各年の年間日数を示す(全国13地点における平均で1地点あたりの値)。太線(青)は5年移動平均値、直線(赤)は長期変化傾向(100年間で17日増加)

#### 政府の「脱炭素社会への長期戦略」に 核融合が・・・

政府は、地球温暖化対策の国際ルール「パリ協定」に基づいて作った長期戦略を11日、閣議決定した。二酸化炭素の排出ゼロを実現する「脱炭素社会」を、今世紀後半のできるだけ早期に実現することを掲げている。

それに向けて、2050年までに二酸化炭素の排出量8割減を目指し、技術革新などに取り組む。

再生可能エネルギーを利用して二酸化炭素を排出せずに水素を製造するコストを 10 分の 1 以下に削減、二酸化炭素の回収、貯留技術の開発などを進める。それだけでなく、核融合もやるというのである。一般に、エネルギー政策の国際会議などで、将来のエネルギーについて議論するとき「核融合」を選択肢のなかに含めることはない。核融合は、いまだ研究段階のものであり、50 年以上前から期待を裏切り続けてきたので、いまでは、だれも期待していない。

## G20 では、気候変動については何も言えず

6 月に大阪で開催された G20 では、参加した 19 ケ国がパリ協定に参加しているのに、アメリカは離脱するという。トランプ大統領をおもんぼかって、だれもこれを話題にしなかった。礼儀正しいのか、そういう儀式的の場所なのか、地球規模の重要なテーマを話し合って合意する機会なのに、どうしたことか。付度はどこでもあるらしい。代わりに「海洋プラスチック問題」が取り上げられた。それはそれでいいのだが。

## 世界全体が 2050 年には 再生可能エネルギー100%の未来

4 月には、フィンランドのラッペンランタ工科大学が、世界 145 地域で 2050 年までに再生可能エネルギー100%の未来が可能だとする報告を発表した。その報告をみると、太陽光と風力が主要なエネルギー源として扱われている。コストも現状のエネルギーシステムよりわずかだが安くなると計算している。

とくに印象的なのは、化石燃料を消費する火力発電がゼロになるので、効率が高くなり、現状よりも少ないエネルギー消費で人口が 97 億人になる世界をサステナブル社会として維持可能だとしている。もちろん日本も含まれている。

詳しくは、「エネルギーデモクラシー」（環境エネルギー政策研究所）に書いたので、興味のある

かたはご覧ください。URL は以下のとおり。

<https://www.energy-democracy.jp/2668>

## 日本のエネルギーはようになる

日本の太陽光発電の規模は、2018 年末に 5500 万 kW に達した。中国、米国について世界第 3 位になった。ドイツを抜いたのである。太陽光は世界全体では 5 億 1000 万 kW であり、まだ風力発電の 6 億 kW より少ないが、勢いからみると太陽光の方が急激に成長している。日本の電力に占める自然エネルギーの割合は、2018 年に水力を含めて 17.4%に達している。

四国電力では、連休の 5 月 5 日の 12 時～13 時に太陽光が最大出力 187 万 kW、電力需要の 88%に達したという。電力需要は 213 万 kW、火力発電の抑制 50 万 kW、揚水発電 59 万 kW、地域間連携線の活用 131 万 kW とあり、太陽光の発電抑制は実施されなかった。

6 月、トヨタ自動車は、2025 年までに新規販売する自動車の半分以上を EV（電気自動車）、HEV（ハイブリッド車）、FCV（燃料電池車）にすると発表した。

## ソーラーライト

グリーンピープルズパワー社の竹本英明社長が、1 月に循環研セミナーで「ソーラーシェアリング」について講演した。そのとき「ソーラーライト」の見本品を紹介してくれた。

これは、提灯型の伸縮するプラスチックの筒の中に LED ライトがあり、蓋の部分に太陽電池がついている。なかにはバッテリーがあり、太陽光発電で得た電力を必要に応じてとりだせる仕組みである。（写真 1）

早速、試してみると、面白いことがわかった。昼間に日の当たる窓辺において充電しておいて、夜になったら枕元において点灯しておく。真夜中におきだすときに照明のスイッチを探さなくてすむから、なかなか都合がよい。





秋葉原を歩いていたら、同じ原理で作られた懐中電灯があった。すぐを買ってみた。繰り返し太陽光で充電できるので、充電の電気代がかからない（写真3）



調べて見ると、太陽光発電+LED+バッテリーという3つの技術革新を使ったいろいろな製品があることがわかった。

ひとつはアフリカで商品化され、フェアトレードになっているゾンネングラスがある。これはドイツ語だからドイツの企業なのだろう。ガラス瓶のふたに太陽電池がついている。200万個を販売したという。アフリカの人々がこれを利用して光景が目にかぶ。（写真2）

さらには、クリップ式で本に挟んで読書できる「ソーラー読書灯」が見つかった。これはアメリカのアマゾンから入手した。（写真4）



というわけで、日常生活にも自然エネルギーが使えるようになってきている。

世界は動いている。

## 環境俳句

循環研理事 及川陽子

今年は春から夏にスムーズに移行しなかった気がする。寒いと思えば暑く、そしてまた寒くなる。服装の調整が難しく、身体の具合が悪くなった方も多いかも知れない。こうなると季節感がわからなくなり作句も苦労する。

さて、俳句のイロハ、その四は季語を**季重なり**について少し。季重なりとは一句のうちに季語が二つ以上入ること。一方が主であることが明らかなきなどを除いて、主題が分裂するので通常これを嫌う。何故ならば、それぞれの季語が互いに持ち味を打ち消しあい、一句を台無しにしてしまうこともあるからだ。

しかしながら、季重なりの俳句の全てが悪いかというと、実はそうでもない。例えば季重なりの句として皆さんもご存知の

「目には青葉 山ほととぎす 初がつを」

(山口素堂) という句がある。

「青葉」「山ほととぎす」「初がつを」という夏の季語を並べ、それに「目には」という三文字を加えて俳句にしてしまった見事な句だ。「青葉」は目で鑑賞する「視覚」に関わり、「山ほととぎす」の声は耳で聞き「聴覚」を刺激する。そして「初がつを」は口で味わうものであり「味覚」を楽しませてくれる。このように五感の中の三つまで盛り込んだ、感覚的な句だ。

ただ俳句は省略を旨とし、無駄な説明は一文字でもそぎ落としたいもの。十七文字という短い表現の中、季語を二つ使ってしまうのは、やはり無駄な気がする。

現代は季語が多数になり、それにとらわれすぎると俳句ができなくなる。俳句の季感をしっかり踏まえるようにしたいものだ。

### 夏号投句 お題「夏の天気」

雨、風、雷、嵐、暑など夏の季語を使って身近な環境について詠む

俳句の講評や添削は「寺門土果」先生にお願いしております。添削は句作の折に参考にして下さい。

### 北竜 4句

#### 梅雨の街地下の宮殿あふれぬか

※首都圏の地下には豪雨に備えた巨大貯水槽が造られているようです。

評) 通常の梅雨くらいでは溢れないでしょうが、最近のゲリラ豪雨が集中したらわかりませんね。

添削) 夏豪雨安心ならぬ地下の池

#### 夏空を見ているだけで生きる価値

※空を見ているだけで生きてて良かったと感じる時があります。もちろんすずちゃんの朝ドラも毎日見えています。

評) 直ぐわかる説明をするのは川柳です。

添削) 思い切り息吸いこんで夏の空

#### 風鈴をゆらす夫婦のすきま風

※夫婦円満のコツは適度な距離感?

評) 隙間風は夫婦仲が冷えたということ。

円満のコツ?

添削) 風鈴や夫婦それぞれ風を聞く

#### 赤潮にプラスチックのからむ<sup>えら</sup>鰓

※魚の気持ちになってみました。

添削) 赤潮に浮かぶ合成樹脂と魚

浩司 3句

100年一度毎年来るよ豪雨災害

添削) 今日も来た百年に一度の豪雨

なんか変春秋短く日本四季

添削) 季節から段々消える春と秋

クールシェアエアコン消して図書館へ

添削) 図書館に日参すべしクールシェア

牛閑 3句

泥水に足を踏ん張る米の苗

添削) 踏ん張った足抜き難き田植かな

夕立が過ぎて子雀水遊び

添削) 小雀の遊ぶ夕立の水溜り

声しずめ螢火見入る闇の中

添削) 螢火は闇の中なり息詰めて

爽龍 4句

紫陽花に心なぐさむ梅雨の日々

添削) 紫陽花は救いよ今日も雨続く

花しょうぶ時が来たかと咲き誇る

添削) 律儀さや季を外さぬ花菖蒲

なおもまた被災地襲う強い雨

添削) 被災地を目がけ襲うか夏豪雨

降り降らず人を惑わす梅雨の空

添削) 優柔や降りみ降らずみ梅雨の空

私(俳号 霧乃)も一句

かの地にも住む人の在り梅雨に入る

次回秋号のお題は「省エネ」(省エネという言葉を使わなくても、それがわかればよい。季語は夏でも秋でもかまわない) 投句の締め切りは9月20日。投句は一人3句迄でお願いします。



## 春夏秋冬

早いものだ、今年ももう半分過ぎてしまった。平成は既に過去の元号となり、令和になって2か月、世間に馴染んできたかどうか。明治、大正、昭和は軽く明るい時代の幕開けの様なイメージがあるのに比べ、令和は何か重く、古風である。新たな時代に相応しいのか。その是非はともかく、私とは言えば、主義、主張に関係なく、元号で誕生日や人生の節目、節目を記憶する昭和の古い人間です。西暦は未だに、手帳の年齢早見表で確認する始末。さて、これからは令和の年に18を足すことで西暦とする、と覚えなければならない。気の早いことではあるが来年の新しいカレンダーは西暦が主になるのか、はたまた新しもの好きが故に令和が主になるのか、興味深い。

そんな令和元年の梅雨は、ここ2、3年では珍しく梅雨らしい梅雨になっている気がする。しかし、今や雨が降れば降ったで記録的集中豪雨になり、テレビでの被災状況の報道が騒がしい。家の中でじっとしていてもジメジメ鬱陶しい。

意を決して、傘を差して外出する。しとしと雨は意外と気持ちがいい。街路樹は生き活きと緑深く、近くの公園では半夏生（はんげしょう、写真）が露に濡れています。合歓（ねむ）の木もピンクの花を咲かせています。燕が傘の廻りを飛び交います。小雨降る神社では茅（ちがや）で作った輪が、ここを八の字でくぐりなさいと威圧します。夏至の時期の「夏越しの大祓」と言うそうです。言われるままにぐるっと廻って、マイナスイオンを感じ、知らず知らず手を合わせていました。

やはり日本の四季と伝統は大切だ。自然との共生と畏怖を忘れてはいけない。そんなことを少し考える梅雨の散歩でした。



## 通り雨小路に浮かぶ空青葉

文／写真：風月（M）

循環型社会研究会（Workers Club for Eco-harmonic Renewable Society）とは

循環型社会研究会は、10年来有志で環境問題現場でのフィールドワークを中心に活動してまいりましたが、2002年7月3日に特定非営利活動法人の法人格を取得しました。

「次世代に継承すべき自然生態系と調和した循環型社会のあり方を地球的視点から考察し、地域における市民、事業者、行政の循環型社会形成に向けた取組みの研究、支援、実践およびそのための交流を行う」ことを目的として活動しています。

循環研通信は年に4回発行しています。広く原稿を募集しています。「環境俳句」にも奮ってご応募ください。次回の締切は2019年9月20日です。

循環研通信/JUNKAN No.54 2019年7月発行

発行人:久米谷 弘光（循環研代表） 編集責任者:榎屋 治紀（循環研理事）

特定非営利活動法人循環型社会研究会

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-1-1 東京スクエアガーデン 14 階

株式会社ノルド内 NPO 法人循環型社会研究会事務局

Tel. 03-6427-9768 Fax. 03-6745-3301

E-Mail: [junkan@nord-ise.com](mailto:junkan@nord-ise.com) HP: <http://junkanken.com/>